

令和6年度
シラバス

教科・科目	歴史総合	単位数	3
-------	------	-----	---

学年・クラス	3 学年（必修・選択）	担当者	鈴木香代子
使用教科書	山川出版社 日本史探究 「高校日本史」		
使用副教材	山川出版社 詳細日本史図録		

目 標

日本史探究では社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す教科である。

授業の内容・進め方

内 容：古代から近現代までの通史を学び、これからの世界の歴史の展開について、課題意識を持って学習します。

進め方：教科書と資料集を中心に展開します。興味を持ったことを深く調べたり自分自身の考えをまとめて発表することもあります。家庭学習での予習・復習が必要です。

考 査：授業で学習したことの理解度、思考力・判断力、表現力・資料活用の技術が試されます。

観 点：興味・関心をもって意欲的に授業参加しているか、内容をしっかり理解し自分のものになっているか、知識を活用した思考・判断で表現できているかを観ます。

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
近現代の	我国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけるようにする。	我国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し、解決を視野に入れて構想したりする力を養う。	我国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価項目	定期考査（年3回）	◎	○	△
	小テスト（適宜実施）	◎	△	○
	レポート（適宜実施）	○	◎	◎
	課題提出（長期休み明け及び適宜実施）	○	△	◎
	授業への参加（通年）	△	○	◎

- ・ 観点別評価 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。
A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する
- ・ 評価・評定 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

年間指導計画及び中単元別評価基準

学 期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
前 期	4	第1章 日本文化の あけぼの	1 文化のはじまり 2 農耕の開始	日本列島における 変化を自然環境の変化 や大陸からの影響に着 目し理解している。 水稲耕作や金属器の 伝来が日本列島の社会 に与えた影響を理解し ている。	遺物や遺構など考古学 上の知見から、旧石器・ 縄文文化社会について考 察し表現している。 クニの形成から小国の 連合について資料から考 察した結果について根拠 を示し表現している。	黎明期の日本列島の歴史的 環境・文化形成について考察 することを通じて旧石器・縄 文文化の特色を明らかにしよ うとしている。 農耕社会の特色や社会の変 化について考察し、明らかに しようとしている。
		第2章 古墳とヤマト政権	1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	渡来人のもたらした ものが現在に日本文化 の基礎にあたることを 理解している。	ヤマト政権の発展や 古墳文化の特色につい て多面的・多角的に考察 し表現している。	小国家の形成と連合に ついて考察することを通 じ展開とつながりを見い だそうとしている。
	5	第3章 律令国家の形成	1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	中国王朝との関係と 政治への影響、律令制 の形成を中心に大化の 改新以降の政治過程 を理解している。	律令国家について、 政治や地方の動向もふ まえ、多角的に考察し 表現している。	中国王朝との関係と政 治への影して響などに着 目し、律令体制の成立過 程とのつながりを明らか にしようとしている。
		第4章 貴族政治の展開	1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園の発達と 武士団	藤原北家の発展過程 や地方支配の変化を資 料から読みとり、律令 体制の変容の観点から 摂関政治を理解してい る。	地方支配の変化に着 目し、奈良時代や平安 時代と比較しながら摂 関政治の特質とその後 の展開について考察す る。	東南アジア情勢がの変 化が日本社会に与えた影 響を考察することを 通じて、摂関政治期の社 会の特色を明らかにしよ うとしている。
	前期中間考査					
	7	第5章 院政と武士の進出	1 院政のはじまり 2 院政と平氏政権	古代から中世の国家・ 社会の変容を理解して いる。	古代から中世の時代 の転換を根拠を示し表 現している。	中世社会の特色につい て多角的・多面的に考察 しようとしている。
		第6章 武家政権の成立	1 鎌倉幕府の成立 2 モンゴル来襲 3 鎌倉文化	源平争乱から執権確 率までの歴史過程、封 建制度成立について理 解している。	幕府と朝廷の2次元 的支配構造の特色と土 地支配に与えた影響に ついて表現している。	鎌倉幕府成立の過程や 封建制度の形成、公家関 係の変化に着目し主体的 に追求しようとしている。
	8	第7章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立 2 下剋上社会 3 室町文化 4 戦国の動乱	鎌倉幕府滅亡後の政 治権力の推移と武家の 関係、日明貿易の展開 アイヌ文化の形成につ いて理解している。	南北朝の動乱と日本 列島の地域社会の変質 東アジアの国際情勢と 影響について多面的・ 多角的に考察しようと している。	武家政権の変容と東 アジアの国際情勢の変 化に着目し前後ののつな がりから政治や社会の特 質を見いだそうしてい る。
	9	前期期末考査				
学 期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
後 期	9	第8章 近世の幕明け	1 天下人の登場 2 豊臣政権と文化	アジア各地やヨーロ ッパ諸国に関する資料 から情報を読み、織豊 政権の特色や貿易・対 外関係を理解している。	織豊政権の制作目的 やヨーロッパ諸国の進 出がアジアに与えた影 響について理解してい る。	時代の転換に着目し、 中世から近代の国家、社 会の変化について時代を 通観する問いを表現しよ うとしている。
	10	第9章 幕藩体制の成立と	1 江戸幕府の成立 2 江戸初期外交と	江戸幕府が法や制度 の整備のもとで、経済 的にも軍事的にも圧倒 す的な力で全国を支配	織豊政権下における 社会のしくみ幕府の体 制下とを比較・考察し その特質について多面	織豊政権下における社 会のしくみ幕府の体制下 とを比較・考察しその特 質について多面的・多角

11	12	展開	文化 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	し、体制を確率したことについて理解しえちる。また、身分制のしくみや村落、都市支配の構造について理解している	的・多角的に考察し、表現している。17世紀の文化の特色について諸資料から考察した結果をまとめることができる。	的に考察し、表現している。17世紀の文化の特色について諸資料から考察した結果をまとめることができる。
		後期中間考査				
		第10章 幕府の体制の動揺	1 幕政改革・文化 2 江戸幕府の衰退 3 化政文化の形成	幕府の財政が悪化する中で実施された享保の改革や田村意次の政策を理解している。	商品作物の栽培、経済の変化による米作を基盤とする幕府の体制が動揺する過程を考察し、表現している。	社会や経済のしくみの変化や、幕府の政策の変化について、課題を見出し主体的に追求しようとしている。
		第11章 近世から近代へ	1 開国とその影響 2 幕府滅亡と新政府発足	対外政策の変容と開国に至る動き、締結された条約の不平等性について理解している。	アジア諸国の変化に着目し、日本の政治、経済の変化を多角的に考察しようとしている	日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し主体的に追求しようとしている。
		第12章 近代国家の成立	1 明治維新 2 立憲国家の成立	明治政府による中央集権化の政策と士族反乱の終焉・欧米・アジア地域との国際関係・文明開化について理解している。	諸制度の改革が地域社会にもたらした変化、条役の相互比較・思想や文化の影響について多面的・多角的に考察しようとしている。	明治維新や文明開化の風潮が展開するなかで生じた様々な課題について主体的に追求し、答えを導こうとしている。
		第13章 近代国家の展開と国際関係	1 大陸政策の展開 2 第一次大戦と日本 3 ワシントン会議	日清・日露戦争前後における条約改正の実現、韓国との関係、満州への勢力拡張について理解している。	議会在戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民にもたらしたことについて考察しようとしている。	対外的な戦争が日本の近代化のなかでもった意味を考察し、主体的に追求しようとしている。
		第14章 近代の産業と生活	1 近代産業と発展 2 近代の文化 3 市民生活の変容と大衆文化	日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基盤が確率された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解している。	地域社会の変化をふまえ、産業全体変化がもたらされたことや労働問題の発生について多面的・多角的に考察しようとしている。	産業の発展とそれによって発生した社会問題への対応について、課題を見出し主体的に追求しようとしている。
		第15章 恐慌と第2次世界大戦	1 恐怖の時代 2 軍部の台頭 3 第2次世界大戦	国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して世界的な経済恐慌のもと国内の経済対策と動揺に関わる諸資料をもとに理解しようとしている。	ワシントン体制下の協調外交が中国における民族運動の進展や日本の経済の動向について考察し根拠を示し表現している。	当事の新聞などから世論の動向を読み取ったり様々な課題について考察したりして、課題を主体的に追求しようとしている。
		第16章 現代の世界と日本	1 占領下の改革と主権の回復 2 55年体制と高度経済成長 3 現代の情勢	第2次大戦前後の政治や社会の類似などに着目して戦後の改革と日本国憲法制定に関わる資料を読みとり占領政策と諸改革について理解しようとしている	地域社会の変化形の変容にも留意しながら占領前後の社会や思想や文化などを比較・考察し、その結果を明確にして表現している。	連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通して、戦後の改革がどのような社会の枠組を形成したのか、現代日本との関係性を踏まえながら主体的に追求しようとしている。
		後期期末考査				